

## 地域再生計画

### 1. 地域再生計画の名称

地域で活躍する企業の育成と地域資源を活用したビジネスクリエーター創出計画

### 2. 地域再生計画の作成主体の名称

香南市

### 3. 地域再生計画の区域

香南市の全域

### 4. 地域再生計画の目標

#### (1) 地域の概要

香南市は、平成18年3月1日に、香南5町村（赤岡町・香我美町・野市町・夜須町・吉川村）が合併して誕生した、面積126.49平方キロメートル、人口34,102人（平成19年12月末住民基本台帳）の新しいまちである。

高知市の東部約20～30kmに位置し、高知龍馬空港、高知自動車道南国インターから近く、土佐くろしお鉄道ごめん・なはり線も通過しており、交通の便の良い地域である。

地勢は、南部地区は太平洋に面する海岸部と肥沃な平野部が東西に広がり、中部地区は低山が連なる中で里山環境が広がり、北部地区は標高約300～600mの四国山地の一部を構成しており、四国山地を源流にする物部川、香宗川、夜須川などが流れる豊かな水と緑に包まれている。

気候は、南海型の気候区分に属し、温暖な気候に加え、年間降水量は県下でも少ない地域となっており、この気候を利用して、古くから野菜の早出し栽培に取り組み、ハウス栽培を中心とした野菜園芸が発展してきた。

#### (2) 地域の産業

産業構造は、平成17年国勢調査によると、第一次産業従事者が21.1%、第二次産業が19.5%、第三次産業が59.4%となっており、平成12年国勢調査と比較すると、第一次産業で0.9%、第二次産業で2.2%それぞれ減少し、第三次産業が3.4%増加している。

第一次産業の主なものは農業・水産業であり、中でも農業については、農家1戸当たりの生産農業所得及び耕地10a当たりの生産農業所得が、いずれも県平均を上回るなど、生産性の高い農業が営まれている。

農業産出額及び生産農業所得統計（平成17年度）によると、香南市の農業産出額は、高知県で2番目に多く、品目別では、みかん、にら、米、かんしょ、メロンなどが上位を占めている。第52次高知農林水産統計年報（平成17年～18年）によると、かんしょ、にら、らっきょう、オクラ、みかんが高知県内で第1位の収穫量とな

っており、なかでも山北みかんのブランドで知られるみかんの収穫量は6,920tであり、高知県全体の収穫量9,760tの71.6%を占めている。また、日本一早い出荷を誇る早掘りかんしょの収穫量も、高知県全体の収穫量の78.6%を占めている。他にも、すいかが県下第2位、メロン、しょうがが第3位の収穫量となっており、旧夜須地域ではエメラルドメロン・ルナピエナ（すいか）・フルーツトマトを立体栽培し、「トレ・フルッタ」（3つのくだもの）としてブランド化を目指すなど、意欲的な取り組みもなされている。

しかしながら、農家戸数は年々減少しており、昭和55年の2,754戸から平成17年には、1,396戸と半減している。後継者不足による農業者の高齢化も進み、耕作放棄地や遊休農地が増加しているとともに、最近の原油価格高騰は、ハウス園芸に大きな打撃を与えている。

農産物は、品目、収穫量ともに十分な素材があるものの、素材をそのまま出荷しているものが大部分であり、付加価値をつけた加工品の生産基盤が弱く、産業として発展するまでにはいたっていない。また、みかんについても、未出荷が3%程度（約200t）あり、これらの売り物にならない通常ハネ物と呼ばれるみかんは、地元加工技術や設備がないことから、県外にジュースの材料として出荷されている。

林業については、輸入木材の影響を受け、木材価格が長期にわたり低迷し、経営体数が少なく、経営規模も零細である。また、木造住宅需要の減少もあいまって、林業経営は採算性が見込めない状況にあり、山林の荒廃が進んでいる。

水産業については、高齢化の進展とともに漁業経営体数が、昭和53年から平成15年の25年間で約半数に減少している（159世帯→81世帯）。魚種別漁獲量では、赤岡・吉川地区のいわし類（しらす漁）、夜須地区のしいら類（しいら巻き網漁）が大半を占めているが、輸入魚の増加や食生活の変化などによる漁価の低迷、また燃料費の高騰、漁獲量の減少により、漁業経営は非常に不安定なものとなっている。

工業については、事務所数は減少しているが、従業者数・製造品出荷額は増加傾向にあり、またクリーンで自然に配慮した企業誘致を進めるなかで、大手半導体製造企業やその周辺企業の立地に始まり、近年、研究開発型の歯科用貴金属地金や、センサー、ICカード、不織布、省力機械製造の企業や大型機械加工の企業などの立地が進んだ地域である。しかしながら、近年、若年層を対象に県外からの求人者数が増加しており、将来、地元企業等で活躍する中核人材が不足するのではないかと懸念される。

卸売業・小売業では、事業所数や年間販売額は減少しているが、近年、大型ショッピングセンターやスーパーマーケットが進出し、従業者数は増加している。しかしながら、大型店舗への消費者の流出や経営者の高齢化により商店街に空き店舗が増え、商業の沈滞のみならず、商店街が形成されたまちの活気や治安面にも影響を与えている。

観光面では、特色のあるイベントや豊かな自然環境を活かした施設があり、年中たくさんの方が訪れ、ホテル・旅館などの宿泊施設も整っているものの、通過型の観光地となりつつあり、今後、独自の観光ルートの掘り起こしなど、滞在・体験型観光地への変化が求められている。

雇用情勢については、有効求人倍率が、平成14年度の0.52倍から、平成17年

度まで0.57倍と上昇したが、平成18年度には0.55倍と低下し、低水準で推移している。また、完全失業率は、6.7%（平成17年国勢調査）で、平成12年と比較すると、2.1ポイント悪化し、地域内の求職者にとって非常に厳しい雇用情勢が続いている。

### (3) 香南市産業の課題

地域経済の活性化を図るためには、特に農産物を地域内で加工し付加価値を高めることにより、他産業との連携を図り、地域の基幹産業として発展させていくことが必要である。しかしながら、域内の食品加工業はそのほとんどが中小零細企業で、開発や品質管理などの実務を担う技術者・研究者を抱えている企業は稀であることから、地域内の食品企業において、品質管理や開発業務を担える専門の技術者を養成し、企業自ら開発を進めていく体制を整えていくことが課題である。

林業・水産業においては、産業としての経営環境が厳しい中での担い手の育成が課題である。

観光面では、近年生まれつつある体験メニューを活かした独自の観光ルートを掘り起こし、滞在・体験型観光地として対応していく仕組み作りが課題である。

工業については、近年、若年層を対象に県外からの求人者数が増加している中での地元企業等で活躍する中核人材の確保育成が課題であり、卸売業・小売業では、商店街に増えつつある空き店舗への対策が大きな課題である。

### (4) 目標

本市の基幹産業である農林水産業や観光産業等における地域資源や既存企業が、市の雇用を支える産業であることを強く認識した上で、地域再生を行う必要がある。

このため、地域産業の再生・活性化を官民協働のもと、地域が一体となって、重点的な取り組みを実施し、地域産業を担う中核的な人材の育成・誘致を図り、雇用の場の創出に繋げていかなければならない。

一次産物の内、農産物については、地域食材の高付加価値化や食品産業の振興等による既存産業の革新や新たな食品関連産業の創出、地域食材のブランド化、加工食品の開発等による地域活性化を目指した取り組みを推進するため、地域課題に対応できる農産物生産・加工、販売の知識や技術、経営能力を備えた人材、とりわけ食材加工に係る技術を備えた専門技術者を創出することが欠かせない。

そこで、科学技術振興調整費「地域再生人材創出拠点の形成」プログラムを活用した、「土佐フードビジネスクリエーター人材創出プラン」により、地域の食品関連産業の従事者や将来の食品関連産業をリードする食品加工分野での中核的人材を育成し、地域経済の活性化と再生を図ることを目標とする。

#### 【土佐フードビジネスクリエーター育成の数値目標】

期間：平成20年から平成25年まで	27名
（内訳）土佐フードビジネスクリエーター上級	7名
中級	8名
初級	12名

また、地域雇用創造推進事業を活用した「地域で活躍する中核人材と地域資源を活

用したビジネスチャレンジプログラム（以下「プログラム」）において、以下の取り組みを行うことにより、地域産業を担う中核的な人材の育成・誘致を図り、雇用の場の創出につなげることを目標とする。

- ・ 一次産物等について、未出荷量を相当かかえていることから、この資源を活用した加工品を試作し、事業として発展させうる企画分野での中核的な人材や、安定した素材供給が出来るよう、生産者のグループ化を図るための中核的なマネジメント人材を育成する。
- ・ その他の地域資源である観光資源等については、資源を生かした企画・指導ができる人材や、滞在・体験型観光で求められる中核的な人材を育成する。
- ・ 既存企業については、企業の経営強化及び労務管理、即戦力となる専門的な技術や企画・営業戦略の能力など、既存企業のニーズに応じた中核的な人材を育成・誘致する。

【地域で活躍する中核人材の育成と地域資源を活用したビジネスチャレンジプログラムの数値目標】

期間：平成20年度から22年度まで 96人の雇用拡大  
(内訳) 常雇42人・常雇以外50人・創業者4人

## 5. 目標を達成するために行う事業

### 5-1 全体の概要

#### (1) 農林水産業及び地域産業振興

地域の食品関連産業の人材育成を行うことを核に、地域経済の活性化と再生を目的として、市独自の取り組みに加え、高知県食料産業クラスター協議会の活動や産学官の連携を通じて、高知大学や高知県工業技術センター、自治体、地元企業が密接に連携し、それぞれが役割を分担することで、目標の達成に向けた取り組みを行う。

その中で、養成人材の積極的な活用、定着により、農業を中心とした地域産業のより一層の振興を図るとともに、現在素材で出荷されている地域農産物を地域内で加工し付加価値を高めることにより、地域の基幹産業として発展させ、雇用の創出につなげていく。

また、高知県食料産業クラスター協議会関係者（食品関係企業、JA、自治体職員）や、地域の有力企業からは本事業への積極的な参画が確約されており、今後、本地域の商工会への働きかけを行い、本事業への協力の輪を広げる。

地域雇用創造推進事業では、一次産物の未出荷分を活用した加工品を試作し、事業として発展させうる中核的な人材や、安定した素材供給が出来るよう、生産者のグループ化を図るための、中核的な人材を育成する。

#### (2) 観光事業の振興

観光レクリエーション施設の波及効果を活用し、産業振興に関連づけた取り組みを進める。また、地域の特色のあるイベントや体験メニューの開催において、市民参加を促進し、訪れた人とのふれあいや交流の機会を創出するとともに、地域での消費需要の拡大を図る。あわせて、地域雇用創造推進事業を活用したプログラムにより、地

域資源等を活用し、観光ルートの掘り起こしを含め、資源を生かした企画・指導ができる人材や、滞在・体験型観光で求められる中核的な人材を育成する。

### (3) 工業の振興

県・市共同で開発に着手した香南工業団地（仮称）（13ha）への企業誘致を進めつつ、併せてこれまで誘致してきた企業の振興を行う。また、地域雇用創造推進事業を活用したプログラムにより、製造業を中心に、国際競争力のある電子部品・デバイス製造業や県外企業との取引が好調なことから、企業の経営強化及び労務管理、即戦力となる専門的な技術や企画・営業戦略の能力など、既存企業のニーズに応じた中核的な人材を育成・誘致を行い、雇用の場の創出に繋げる。

## 5-2 法第5章の特別の措置を適用して行う事業

該当なし

## 5-3 その他の事業

### 5-3-1 基本方針に基づく支援措置

#### (1). 科学技術振興調整費「地域再生人材拠点の形成」プログラム【B0801】

イ. 事業名：土佐フードビジネスクリエーター人材創出プラン

ロ. 実施主体：高知大学

ハ. 実施期間：平成20年度～平成24年度

ニ. 連携自治体：香南市

ホ. 事業概要：

本市と高知大学が連携し、地域経済の活性化を目標に地域の食品関連産業の従事者や将来の食品関連産業を支える中核人材を育成する本ユニットを形成する。そして、地域の食品関連企業・団体の従事者や農業者等を受け入れ、食品の製造・加工や品質管理をはじめ現場実践学や課題研究など7つのカテゴリに分け、講義と現場実習を通して教授することにより、将来の地域食品関連産業をリードする人材を育成・創出し、知の拠点として地域貢献することを目指す。

■食品製造・加工：食品の加工・製造技術と発酵技術を食品成分の科学的性質を理解した上で習得する。さらに、加工プロセスで生じる2次的な成分間相互作用について理解し、その制御法について自ら設計する考え方を身に付ける。

■マネジメント：食品産業を経営する視点から必要とされる経営理論、人材管理法、知的財産の権利化・活用について学ぶとともに、起業に関する基礎的知識を習得する。

■品質管理：食品の安全・安心を担保する品質管理の考え方、法律、並びに実際の管理技術について学習するとともに、これまでに起こった様々な社会的事件について学ぶ。

■食品機能：地域の有する豊富な農林水産物が持つ多彩な機能（栄養性、嗜好性、生体調節機能性など）を正しく理解して、その加工食品化へ

のプロセスについて深く学ぶ。

- 実 験 技 術：理系の大学生（卒業レベル）が備える基礎科学実験の技術を身に付け、あわせて実験計画の立案や実験データの統計学的解析法に関する基礎的知識を習得して、製品の分析や商品開発が可能な能力を身に付ける。
- 現 場 実 践 学：生産工場等の現場で衛生管理、製品開発、品質管理、微生物検査等を実践して体得することによって食品工場の生産ラインに即応できる能力を養い、地域食品産業に貢献できる人材を育成する。
- 課 題 研 究：地域企業の抱える様々な課題をスーパーバイザーが整理して、その課題の中から受講生にOJTで課題解決の指導を行う。実施期間と実施課題の難度によって、初級、中級、上級のメニューとする。

(2) 地域雇用創造推進事業【B0902】

イ. 事業名：地域で活躍する中核人材の育成と地域資源を活用したビジネスチャレンジプログラム

ロ. 実施主体：香南市地域雇用創造協議会

■協議会メンバー

香南市商工会 土佐香美農業協同組合 香南漁業協同組合  
香美森林組合 香南市観光協会 香南市議会 香南市

ハ. 実施期間：平成 20 年度～平成 22 年度

ニ. 事業概要：

(イ) 雇用拡大メニュー

■雇用機会の拡大セミナー

地域資源を活用した事業展開や観光産業等地域産業で活躍されている方々を講師に迎え、商品の開発、販路の拡大、労務管理などのノウハウを研修する。

参加予定者数：1年目（6社）、2年目（8社）、3年目（10社）

回数：年2回（初年度は、1回）

(ロ) 人材育成メニュー

① 地域資源活用系人材育成

a. 一次産物の活用ができる人材育成

■ 一次産物の活用ができる人材育成

一次産物を加工し、事業として発展させうる人材の育成。また、安定した素材供給が出来るよう、生産者のグループ化を行うコーディネーターを育成するため、講演及び研修を実施する。

参加予定者数：1年目（10人）、2年目（12人）、3年目（12人）

回数：年6回（初年度は、3回）

b. 観光資源の活用ができる人材育成

■ 成功事例等研修会

観光資源を活かした企画・指導ができる人材を育成するため、観光資源を活用した事業展開の成功事例等の講演及び研修を行う。

参加予定者数：年間（30人） 回数：年2回（初年度は、1回）

■ 海辺の探索ガイド養成講座

滞在・体験型観光で求められる、インストラクターを育成する。（シーカヤック、シュノーケリングの知識・技能の習得及び、珊瑚の知識を習得、障害のある人との接し方などの養成講座も開催する。）

参加予定者数：年間（10人） 回数：年5回（2年目から実施）

■ ヨットのインストラクター養成講座

滞在・体験型観光で求められる、インストラクターを育成する。（ヨットの知識・技能の習得及び、障害のある人との接し方などの養成講座も開催する。）

参加予定者数：年間（3人） 回数：年10回（2年目から実施）

■ 地域資源を活用した料理人養成講座

地場料理の掘り起こしと、新料理作りなど、おもてなしの食を含めたノウハウを研修し、地場料理人として活躍できる人材の養成講座を開催する。

参加予定者数：年間（10人） 回数：年3回（2年目から実施）

■ まちの案内人養成講座

観光施設、歴史、文化財、特産品、地場料理などの案内人や、土佐凧などの伝承人、又、海からの案内人など、まちを一元的に案内できる養成講座を開催する。

参加予定者数：年間（15人） 回数：年7回（2年目から実施）

■ 塩の道案内人養成講座

「美しい日本の歩きたくなるみち500選」に選ばれた、「塩の道」を案内できる人材を、ウォーキングの知識などを含めて研修する養成講座を開催する。

参加予定者数：年間（12人） 回数：年5回（2年目から実施）

② 地域で活躍する製造業系人材育成

a. 中核的な人材の育成

■ 中核的な人材の育成研修

企業の経営強化及び労務管理など、採用から育成までの過程で重要となりうる中核的な人材の育成を行う。

参加予定者数：1年目（13人）、2年目（15人）、3年目（20人）

回数：年2回

b. 専門的な技術を担う人材の育成

即戦力となりうる専門的な技術について、実習を中心に講習会等を開催し、専門技術を担う中核的な人材及び製造業に適応しうる技術を持った人材を育成する。

また、製造業にふれる機会が希薄な地域であることから、地域求職者（非正規型雇用者で製造業への転職希望者等を含む）に対し職場体験等を実施しながら、現場における人材ニーズに対応した人材を併せて育成する為に、下記研修会を開催する。

■ 溶接（作業編）研修

被覆アーク溶接作業の溶接法などを研修する。

参加予定者数：年間（5人） 回数：年6回

■ 溶接技能研修

半自動（マグ）溶接技能クリニックなどを研修する。

参加予定者数：年間（5人） 回数：年8回

■ 製造業における三次元CADモデルデータ構築技術研修

三次元CADによる設計・製図作業などの実務作業に関する知識・技能などを研修する。

参加予定者数：年間（5人） 回数：年8回

■ 生産現場における三次元測定技術（幾可偏差測定編）研修

製品の幾可偏差測定や公差照合計算、輪郭形状測定などを研修する。

参加予定者数：年間（5人） 回数：年4回

■ 加工技術研修

フライス盤及び旋盤精密加工技術などの研修を行う。

参加予定者数：年間（5人） 回数：年8回

■ NC旋盤実践技術（プログラミング編）研修

NC旋盤加工における工程検討などの研修を行う。

参加予定者数：年間（5人） 回数：年10回

■ マシニングセンタ加工の実務研修

マシニングセンタ加工における工程検討などの研修を行う。

参加予定者数：年間（5人） 回数：年10回

■ 職場体験講習

求職者と企業との相互理解を深めて、早期就職に繋げるために、職場体験講習を開催する。

参加予定者数：1年目（10人）、2年目（20人）、3年目（20人）

回数：年10回（初年度は、5回）

C. 企画・営業力中核的な人材の育成

■ 企画・営業力中核人材育成研修

市場ニーズを踏まえた新たな開発能力や、プレゼンテーション能力等、営業戦略等のための能力開発を行い、大都市圏等への販路拡大を担う中核的な人材を育成する。

参加予定者数：1年目（5人）、2年目（8人）、3年目（8人）

回数：年2回

(ハ) 就職促進メニュー



- a. 情報提供のためのホームページ運営事業  
協議会のホームページを開設し、講習会及び研修会の開催等を周知するとともに、U・I・Jターン者に必要な情報を提供する。
- b. 情報パンフレット作成・発行事業  
協議会で開催する講習、研修会の開催情報等をパンフレットとして発行し、情報を提供する。
- c. U・I・Jターン募集事業  
U・I・Jターンフェアへの参加及び就職相談を開催し、U・I・J就労希望者への情報提供や就業相談の場を提供する。  
参加予定者数：年間（25人） 回数：年1回（2年目から実施）

### 5-3-2 独自で行う事業

#### (1) 地域再生基本方針に基づく支援措置によらない取組

##### イ. 地域食材を使った加工品の開発

高知県食料産業クラスター協議会の取り組みと連動し、高レベル技術の人材を創出することにより、特産品である山北みかんの未出荷分を活用し、地元企業との連携によるストレートジュース等の加工食品の開発・販売を行っていく。

##### ロ. 地場産品ブランド化事業

商業者と生産者との連携による地場産品を活用した特産品開発の支援や地域の特性を活かした付加価値の高い製品の開発、ブランド化を支援する。

##### ハ. レンタルハウス事業

農協が事業主体となり、施設（ハウス）をレンタルすることによって新規就農者等の栽培技術の向上及び農家の負担を軽減することによる施設園芸の振興を図っていく。

##### ニ. 農家の担い手対策

「香南市担い手育成確保アクションプログラム」に基づき、認定農業者、農業生産法人、集落営農組織、農業サービス事業体、新規就農者といった多様な担い手を香南市独自に担い手として位置づけ、育成支援を行っていく。

##### ホ. 地産地消対策

市内の小学校（5校）中学校（1校）で、学童農園を実施し、芋やもち米を栽培、収穫することにより、食育・食農教育を行っていく。

##### ヘ. 農業環境対策

ハウスのエコ対策として、ビニールの外張りやネットの強化を行い、断熱効果を上げることにより燃料効率を改善し、また、虫の侵入を防ぐことにより農薬の使用量を抑制する取り組みを行う。

##### ト. 林業基盤整備

林道の開設及び機械の導入を進め、労働力、経費軽減など、効率的な経営を支援する。

##### チ. 漁業就業支援事業

新規沿岸漁船漁業就業希望者が、香南市に定住して自営の沿岸漁船漁業者として自立するために、必要な漁業技術習得等を支援する。

リ．各種イベントや体験交流型観光のPR

年間を通じて市内各域で開催される各種イベントや、体験メニューの実施に際し、住民団体などが指定管理者となっている拠点施設の運営や、香南市観光協会などの活動の支援を通じて市民参加を促し、香南市の特産品・食品加工品の販売・PRを行うことにより、商店街の活性化を図る。

ヌ．計画期間

認定の日から平成25年3月まで

6．目標の達成状況に係る評価に関する事項

本計画は、香南市、南国市、香美市、高知大学、工業技術センター、企業等との連携により実施するものである。本計画の進行管理と評価については、連携団体の意見を聞きながら、定期的に育成プログラムの内容とその運営方法について点検・評価を行うとともに、必要があれば改善を実施する。また、最終年にあたる平成24年度には、最終の事業評価を行う。

また、地域雇用創造推進事業（新パッケージ事業）の目標達成評価については、実施主体において毎年度、利用者等へのアンケート調査などを行い、状況を分析し、次年度以降の事業に生かしていく。

7．地域再生計画の実施に関し当該地方公共団体が必要と認める事業

該当なし